

No.8「新聞を毎日読む習慣を身に着けよう」

Q 1 : 新聞は毎日読んだほうがよいのですか。

A : (1) その通りです。新聞は、1日30分以上、毎日、読んだほうがよいと「確信」します。

(2) 今回の新型コロナウイルスによる感染症の拡大についても、スマホやTVによる報道にプラスして、新聞を毎日読むことにより、かなり正確に現状を把握し、対策を考えることができます。

(3) もし、中国に「言論の自由」、新聞を含めた「報道の自由」が、日本をはじめ欧米諸国のように保障されていたら、ここまでの感染拡大はなかったと考えるのは、私だけではないと考えます。

Q 2 : では、お聞きします。新聞とは何ですか。報道の自由とは何ですか。

A : (1) 新聞は、「社会の番犬(Watch Dog)」です。社会の中でおかしなことがあったら、「社会の番犬」としてワンワンと大きな声で吠え、「ここがおかしいよ」とみんなに知らせるのが新聞の仕事、社会的使命(ミッション)と私は考えます。



(2) 中国の1人の医師が新型肺炎の危険性を指摘し、その医師が処罰されそうになったら、中国中、いや世界中の新聞が総力を挙げて取材して「それはおかしいよ」と報道し、どんなに力を持った政府であっても、世の中を正しい方向にもっていくよう批判をしなければなりません。

(3) この「ちょっとおかしいのではないか」という「批判的精神」をもつこと、社会に対して「警鐘」を鳴らすことこそ、新聞の真骨頂、新聞の本来の役割と考えます。

Q 3 : 小学生、中学生、高校生も新聞を、毎日、30分以上読んだほうがよいのですか。また、新聞を読んで、わかるのですか。

A : (1) 私の場合、小学校4年生になったときに、クラス担任の岡典子先生から「皆さん、4年生になったので、新聞を毎日読みましょう」といわれて以来、新聞を毎日読んでいます。

(2) 小学校4年生のときには、新聞に書いてあることの全部は、よくわかりませんでした。TV欄やスポーツ欄、天気予報、近くの街の記事などは、小学校4年生でもわかるものが多かったと記憶しています。

(3)一番よくわかったのは、スポーツを含めた「報道写真」と、連載マンガ、それに投書欄でした。特に、新聞には素晴らしい「写真」が毎日たくさん出ていたので、ワクワク、ドキドキしました。少しずつ慣れてくると、新聞の一面の下のほうにある「コラム」に面白いことが書いてあることに気づき、毎日読むようになりました。

(4)このように、新聞は小学校4年生でも十分にわかります。今の小学生は、皆、何十年か前の私よりもはるかに優秀です。是非、小学校1～2年生から、わかるところだけでもOKですので、新聞を、毎日読んでください。

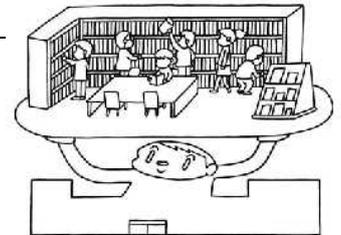
〈保護者の皆様へのお願い〉

(1)家で購読している新聞で、御家族の皆様が読み終えて不要になった昨日の新聞を、お子様の勉強用に、毎日、プレゼントしてあげてください。素晴らしい教材となりますので、御協力ください。

(2)御家庭で新聞を購読なさっていない場合は、よくお話し合いになって購読して頂くのが一番です。勤務先や知り合いから、不要になった新聞を頂いてきて、お子様にプレゼントすることも、是非お考えください。

(3)週に1～2回、コンビニで新聞を買い求め、御家族の皆様が読み終えた新聞を、お子様に、教材用としてプレゼントすることも有り難く思います。

(4)学校図書館や公共図書館が、使用できるようになったら、週に何回か出掛けて、何種類かの「新聞」を読むように、御家庭でも御指導ください。



Q 4 : 新聞を読んだあとは、どうすればよいのですか。

A : (1)一番のおすすめは、興味のある記事や気になる記事を「カッターやハサミ」で切り取り、「スクラップブック」、つまり、使いかけの「ノート」や「台紙」(広告のウラでもOK)に「のり」で貼り付けて保存することです。

(2)保存した記事を、何回も何十回も、読み返すことです。

(3)記事を読み、考えたことや感じたことを書き添えてもよいと思います。

(4)切り取った新聞をまとめて、空箱などに入れておき、あとでまとめて読むことも、「超おすすめ」です。「スクラップブック」がすべてではありません。大切なのは、気になる「記事」を切り取って保存し、何回も読み直し、自分の頭で考えることです。

(5)但(ただ)し、図書館の新聞はみんなのもの、「公共物」です。絶対に切り取ってははいけません。お金があったらコピーする、なければ、「ノート」か「カード」に書き写すことです。



Q 5 : 新聞を毎日読んで身に着くものは何ですか。

A : (1)①「これはちょっとおかしいのではないか」ということを、新聞の目を通して
知ること、「自分で考える力」「批判的思考(クリティカル・シンキング)
能力」が身に着きます。

②そのためには、1つの新聞だけを長期間読み続けるのではなく、時々、い
くつかの新聞を図書館などで読み、「読み比べること」が大切です。

③毎日読んでいる新聞社の見方の他に、ちょっと違った見方をする新聞社もあ
ることを知りながら、1つのお気に入りの新聞を読むことが大切です。

(2)地域や日本、世界で何が起きているのかの最新の知識を得ることができます。

①「世の中の動き」を、最も正確に伝えるのが新聞だからです。

②政治・経済・国際関係・ビジネス・教育・文化・福祉・健
康・旅行・趣味・映画・TV・読書など、ありとありゆる分
野の情報を、新聞で知ることができます。

③囲碁や将棋、数独、クロスワードパズル、連載小説や4コ
ママンガ、天気予報まであります。

		5	3				
8							2
	7			1		5	
4					5	3	
	1			7			6
		3	2				8
	6		5				9
		4					3
					9	7	

(3)新聞記事の多くは5W1Hでわかりやすく書かれています。そこで、新聞を毎日読
むことで、新しい文章や情報を正確に、又、論理的・分析的に読み解く力、つま
り「読解力」を身に着けることができます。

①開倫塾のテキストや学校の教科書、教材、定期試験、模擬試験、入学試験等で、
皆さんは毎日のように新しい文章に出会っています。

②その新しい文章や情報に出会ったときに一番大切なのは、それらの文章や情報
を正確に、又、論理的・分析的に、又、一定時間内に読み解く力、つまり、「読
解力」です。

③新聞を、毎日30分以上読み込むことが「学習習慣」として身に着いている人
は、一定時間の中で新しい文章や情報を正確に、又、論理的・分析的に読む「読
解力」が身に着いています。ですから、学校の成績はよく、試験、特にトップ
校・難関校の入学試験にも強いこと当然です。

④最近の「中高一貫校入試」「私立中入試」「私立高入試」「公立高入試」「大学
センター入試」「大学独自入試」は、問題文と設問・選択肢などを合計した文
章や情報量がとても多くなっています。そのため、短い試験時間内に、大量の
文章を十分に読み終えることができず、入試に失敗する例が数多く見られます。
トップ校・難関校の入試対策としても、新聞を30分以上毎日読むことは欠か
せません。



＜英字新聞も読んだほうがよいのですか＞



A : (1)当然です。

- ①「英字新聞」には、中学生用、高校生用や週に 1 回発行のもので日本語の解説が入ったものがあります。
- ②まずはそこからスタートするのも、一手です。
- ③英検準 2 級に早めに合格したら、毎日発行される「英字新聞」を、毎日 1 時間以上かけて熟読することをおすすめします。

(2)「英字新聞」でおすすめの第 1 は、「読売新聞」の英語版「Japan News」です。

- ①まず、日本語の「読売新聞」を、毎日 30 分以上よく読むこと。
- ②次に、よくわかる内容のところだけで OK ですから、「読売新聞」の英語版、「Japan News」を、毎日 1 時間くらい、辞書を引かずによく読むことです。
- ③できれば、「英字新聞」は小さな声を出しながら「ボソボソ」と読みましよう。
- ④最後に、その日に一番気になる「英字新聞」の記事をカッターで切り抜き、又は、コピーをしてノートにのりで貼り付け、よくわからない語句は、辞書を用いて、一行一行丁寧に「精読」しましょう。
- ⑤辞書で調べたことは、「ノート」に書き写すこと。「音読練習」「書き取り練習」を繰り返し、すべて身に着けることも、確実に行ってください。

(3)英字新聞でおすすめの第 2 は、「The Japan Times」です。

- ①1 時間～2 時間かけて辞書なしですべて読む。
- ②気になる記事は 1 つか 2 つカッターで切り取り、又は、コピーをしてノートにのりで貼り付け、辞書で調べながら精読する。

(4)英字新聞でおすすめの第 3 は、「The Japan Times」の中に入っている「The New York Times」です。

- ①これは内容豊富なので、2 ～ 3 時間かけて毎日読む。時間があれば、4 ～ 5 時間読む。
- ②気になる記事はカッターで切り取るかコピーをしてノートにのりで貼り付け、辞書を用いて徹底的に精読することをおすすめします。

(5)「Japan News」→「The Japan Times」→「The New York Times」と進めば進むほど、1 つの記事の長さが長くなり、記事も調査・報道とって本格的なものが多くなりますので、読み応(ごた)えがあります。トップ校や難関校の大学や大学院の入試対策としては、更(さら)には、TOEIC や TOEFL 対策、国際企業や国際機関の採用試験対策としては、この 3 つの英字新聞だけで十分と考えます。

